

だい じ ぶ ら ん な か とく
第2次プランの中で特にがんばること

1. 多文化共生サポーターの制度をつくる

外国人市民が地域の活動に参加することを助けたり、外国人市民と地域をつなぐ役割が「多文化共生サポーター（仮の名前）」です。

この制度をつくり、外国人市民もサポーターとして活躍できる仕組みを考えます。

- ★外国人市民と日本人市民の会話や、自分の考えを伝えることを助けること
- ★多文化共生に関する活動やイベントのお手伝い
- ★外国人市民の近くにいつもいて、見守ること など



2. 多文化共生サロンの場所をつくる

外国人市民や多文化共生に興味がある日本人市民がいつも集まり、外国人市民の暮らしや多文化共生の活動の情報をあげたりもらったりできる場所が「多文化共生サロン（仮の名前）」です。この場所をつくるために、いろいろな取り組みをします。

- ★外国人市民と日本人市民の交流や、つながりをつくる場所
- ★情報を出したり、集めたり、あげる場所
- ★仲間を集めたり、活動を助ける場所
- ★外国人市民が気軽に来ることができる場所 など



かんたん せつめい (やさしい日本語)
簡単な説明(やさしい日本語)

だい じ あん じょう し た ぶん か きょう せい ぶ ら ん
第2次安城市多文化共生プラン

だれもが安心して暮らせる
多文化のまち安城

けい かく き かん ねん ど
計画期間:2019~2024年度

あんじょうし す がいこくせき ひと ねん がつ にん おお
安城市に住む外国籍の人は、2018年7月に7,000人より多くなりました。

こくせき などに かんけい なく、みんなが しょうらい きぼう も 持つことができる ちいき を つくることが 大切です。

2014年につくった だい じ ぶ ら ん けいけん を 活かして、多文化共生の しゃかい に するために、「第2次安城市多文化共生プラン」をつくりました。



あんじょうし す がいこくじんしめん
安城市に住む外国人市民

2018年9月30日の外国人市民の数は7,099人、日本人もあわせた安城市に住む人の数の3.76%です。数も割合もどちらも増えています。

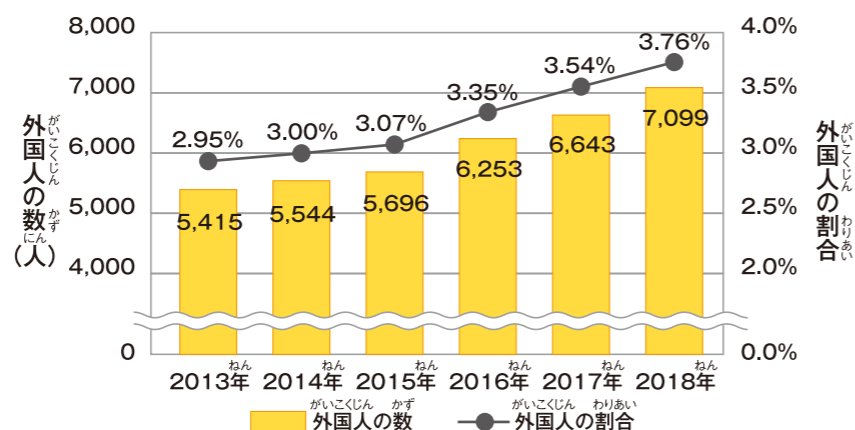


図. 安城市の外国人人口及び割合の推移(各年9月30日)
(安城市住民基本台帳)

外国人市民の国籍は、ブラジルが一番も多く、外国人市民の30.4%です。次にフィリピン、中国が多いです。最近ではベトナム、インドネシア、スリランカ等のアジアの国が増えています。いろいろな国・地域の人が住んでいます。

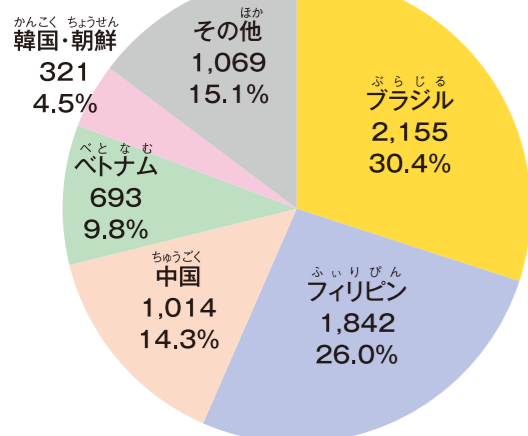


図. 安城市の外国人市民の国籍
(2018年9月30日)(安城市住民基本台帳)

あんじょうし た ぶん か きょう せい
安城市の多文化共生がめざすこと

- (1) たくさんの外国人市民が、安城のことが好きで、地域の人と仲よく、気持ちよく生活しています。
- (2) 外国人と日本人に関係なく、いつも話をしたり、交流したり、一緒に活動することが多くあります。また、お互いに、助けたり、助けられたりする関係になっています。
- (3) 多文化共生のための活動を、いろいろな人や団体が、たくさんしています。
- (4) 外国人市民も、日本人市民も、みんなが将来に夢をもって住んでいます。
- (5) 多文化共生の考えをたくさんの市民がわかって、当たり前のことになっています。
- (6) 「いろいろな人がいること」が安城の良いところになっていて、地域の発展の役に立っています。

外国人市民と日本人市民と一緒に活動しているところ



多文化共生まちあるき



日本語教室



防災訓練

(地震や台風などから身を守る練習)

第2次安城市多文化共生プラン【概要版】
~だれもが安心して暮らせる「多文化のまち安城」~
2019~2024年度

編集・発行: 安城市 市民生活部 市民協働課 地域振興係

電話: 0566-76-1111 (代表) FAX: 0566-76-1112 (代表) <http://www.city.anjo.aichi.jp/>

だれもが安心して暮らせる
多文化のまち安城

6年後にめざすこと

- ①日本人も外国人も関係なく、自分からあいさつをしたり、話しかけたりして、お互いを理解しています。
- ②外国人市民の暮らしの心配が減っています。子どもも夢をもって暮らしています。
- ③多文化共生をみんながわかります。
- ④外国人市民も地域で役割があり、活躍しています。

〈目標の数字〉

目標	2017年度		2024年度
多文化共生がわかる日本人市民	33.6%	➡	50%
地域のまつりや仕事に参加したことがある外国人市民	55.2%	➡	60%
安城市を住みやすい場所だと思う外国人市民	87.5%	➡	90%
高校などの学校に入る外国人の中学生	82.5%	➡	91%
多文化共生に関係する活動をしている市民団体の数	5団体	➡	8団体

基本の考え

[1] 多文化共生の考えを知っている人を増やす

[2] 外国人市民が勉強できる場所などを増やす

[3] 日本人市民と外国人市民が話したりできるようにする

[4] たくさんの外国人市民にわかりやすく情報を伝える

[5] 外国人市民の暮らしの不安を少なくする

[6] 外国人市民が地域で活躍できるようにする

[7] 多文化共生を手伝う人を探す、育てる

主にすること

(1) 多文化共生の意味をわかるようにする

(2) 外国の文化を知ったり、外国と交流する

(1) 日本語を勉強できる場所を増やす

(2) いろいろな場所や時間に勉強できるようにする

(1) 日本人も外国人もお互いに話しかけやすくする

(2) 日本人と外国人が気軽に交流できる場をつくる

(1) 市役所からのお知らせを外国人市民にも伝わりやすく

(2) 外国人市民にわかりやすく情報を伝える仕組みをつくる

(3) 外国人市民へのいろいろな情報を増やす

(4) 建物やまちの案内などをわかりやすくする

(1) 子どもを産んだり育てる時の不安を少なくする

(2) 子どもが育つことや、将来活躍することを応援する

(3) 地震や台風などが起きた時の不安を少なくする

(4) 生活の中で起きる困ったことに応える

(1) 外国人市民が地域の仕事などに参加することを手伝う

(2) 外国人市民に地域の仕事を手伝ってもらう

(3) 外国人市民の考えを聞く場所をつくる

(1) 多文化共生に興味がある人を探す、育てる

(2) 多文化共生の活動がたくさんある

主にすることの例

子ども日本語教室を手伝う

外国人市民の子どもが、学校の他にも日本語を勉強したり、自分で勉強する場所を増やすことを手伝います。



話したり伝えるための道具を上手に使う

市役所の職員が外国人市民と話すときに、「指さし会話ボード」、「音声翻訳ソフト」、「遠隔通訳サービス」などの道具を上手に使います。



子どもを育てている人が集まる場所をつくる

子どもを育てる外国人市民などが、気軽に集まったり、いることができる場所をつくれます。



外国人市民が相談できる場所を増やしたり、相談しやすいようにする

外国人市民が相談しやすくなるように、市役所の市民相談は、相談できる場所を増やしたり、わかりやすく相談

できるようにします。外国人の悩みに詳しい人との協力も考えます。

